

11
November

俳句

(2 0 2 3)





た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句
10 ＼	5 ＼	1 ＼

目次

<霜月>

霜が降りる頃であることから、「霜月」と呼ばれるようになったというのが一般的のようです。

季節：初冬（しょとう） ※立冬から大雪の前日まで。

（宇佐美保幸）メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに
巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

十一月庭の掃除を始めけり
神無月パワースポット変わりなし

文化の日サウナに汗をしたたらす
デパ地下で弁当を買う文化の日

ニュータウン桜落葉の清掃日
茶の花や咲いて新聞無反応

柿落葉ただ偶然か足元に
ニュータウン初冬の気配清掃日

立冬や昔ヤンキー父母となり
立冬や団地に売り家職立つ
パソコンも時にクラッシュ冬に入る
冬が来てライトアップの列島に

冬はじめ終活一時中断し



四十六都道府県冬はじめ
津軽三味序破急自在冬に入る

生殖医療それは無縁に返り花
自分史の代わりの句集返り花
人工知能我には無用返り花

送電の鉄塔続く初時雨
鎌倉の寺社を巡りて初時雨

冬紅葉散るや東京坂多し
冬紅葉秩父連山化粧して

肌寒の暇な手がまたスマホかな
認知症増えてどうした冬うらら

一時の紅を競いて散る紅葉
散る紅葉土に還るか冥土へか



シャンシャンと伝統守る酉の市
我が団地静か静かに夕時雨

短日や世の中乱れ山汚れ
キーボード指先なじみ日の短か
短日や山手線を一周し

小春日やブログ原稿機嫌良く
正義ずら社説が多く花八手
原理主義護憲護憲と花八手

セーターに虫食い見つけ悔しけり
冬の空はつきりしないものばかり
山茶花が散りて毎日日が暮れる

冬の星数えてみてもむなしけれ
運不運いずれに生きて石露の花



マンネリの出雲の旅や神の旅
飽食や馬鹿なテレビの冬の夜
冬の夜の回想いつも孤独なり

枯葉踏み枯葉を壊すスニーカー
枯葉踏み始発バス待つバス停で

枯れ芒殺気一瞬時止まる

我も欲し落葉重なる絨毯を
善と悪いまだ地球に落葉かな
罪のない落葉残酷焚かれけり
落葉踏み昭和の話美しく



モロク俳句

十一月真意わからぬモロクし
モロクし十一月のむなしさや
モロクし十一月が流れゆく
モロクしたやすく忘れ神の留守

モロクしかたくななりし冬紅葉
世紀末到るモロク冬紅葉

モロクし息たしかめつ冬隣
モロクし処方薬増え初時雨

紅葉散るモロクすれば心病む
モロクし沈黙守る枇杷の花

大根煮モロクすれど健やかに



モロククし専守防衛冬来る
モロククし時は流るる冬来たる
冬が来て骨が謀反をモロククし
モロククし人間諸君冬に入る
モロククし落ちる夢みる冬に入る
モロククし崖っぷちなり冬に入る

冬にいる無学哲学モロククす
決意などいらぬモロクク冬にいる
モロククしゴール近く冬に入る
モロククし闇に戻る日冬に入る
モロククし追いかける影冬に入る

石露開くモロクク吾をいたわりて
石露咲くやモロククすれどほの明かり
モロククし頭怠けし石露日和
モロククし言はでなきこと石露の花



ことごとくモーロク進み時雨なり
時雨るるやモーロクランチオムライス

モーロクし冥途近づく八手咲く
言はねどもモーロクが見ゆ花八つ手
気がつけばモーロク進み花八つ手
モーロクしモーロク友と花八手
花八手咲いて哀しくモーロクす

モーロクしモーロク掟冬の朝
山茶花やモーロクすれど腹はへる
山茶花や毎日毎日モーロクす

小春日やモーロクすればただ眠く
綿虫と共にモーロク青い夜

木枯らしに骨をたたかれモーロクす
モーロクし男寂しく肌寒し



モ一ロクし花柎に氣後れす
モ一ロクし柎の香に酩酊す
モ一ロクし花柎の風過ぐる

モ一ロクし戻り得ざりし枯蓮や
枯蓮のごとくモ一ロク日本かな
モ一ロクしすべて略して枯蓮や
モ一ロクし溺れ崩れる蓮の骨

氣持ちだけ若くモ一ロク帰り花
モ一ロクしおしやれ無用に帰り花
モ一ロクし笑い忘れて返り花
モ一ロクし成り行き任せ返り花
モ一ロクしいま一度とて狂ひ咲き

モ一ロクし影を失う冬座敷
モ一ロクし吾も祈りし枯蠓螂
枯蠓螂無駄に鎌立てモ一ロクし



モーロクし膨らむ記憶龍の玉
モーロクし膨らむ妄想龍の玉
モーロクし帰る道なき龍の玉

枯芒余生まぼろしモーロクす
モーロクしちぢむ肉体枯芒

落葉踏み進む季節やモーロクす
確信を落葉の道にモーロクし
美しき落ち葉とならんモーロクし
モーロクし落ち葉落ち葉に落ち葉せる

モーロクし行くあてもなし小六月
モーロクしセーター重ね着ぎしても

後すだりモーロクすれば冬夕焼け
熱爛やちびりちびりとモーロクす



たべもの俳句

手塩かけもみじ天ぷら修験道
砂肝を塩焼き焼き鶏おつまみに

しら粥に梅干し添えて文化の日
文化の日市販とんかつカツカレー

ラーメン店行列長し冬近し
初時雨ラーメン求め街中華

つけうどん野菜天ぷら冬隣
切り干しのうまみ食感マヨサラダ

立冬の鍋の茸が会議かな
冬来たる高野豆腐を煮含める
ジュージューと揚がる豚カツ冬初め



明日から冬に入ります鍋料理

ほっこりとジャガイモポトフ冬に入る
ごろごろのかぶのシチューの夕ご飯
とろっとしたかぶの食感そぼろ煮に

スキレットブロッコリーのアヒージョを
ぽりぽりと新沢庵で朝ご飯

小春日やきつねうどんでお昼かな
小春日や今日は上手にオムライス
小春日や冷凍チャーハン温めて

初時雨コトコトポトフソーセージ
大根のそぼろあんかけ熱々を

ピリ辛漬ザーサイ風に白菜を
酉の市うどんを茹でてだし醤油



落葉して街中華屋の中華そば
にんじんの甘さ凝縮フライドに

シンプルに牡蠣のうまみのスパゲッティ
ヌーボーもやはり甲州日本人

ぶり刺身塩昆布和えねつとりと
猫舌や熱爛加減むずかしく
熱爛にサーモン旨辛みそ和えを

とろんとしたかぶがさっぱり甘酢漬
鴨ねぎで赤だし仕上げお味噌汁

芽キャベツとベーコン炒めおつまみに
鰯竜田焼き肉ダレでほっぺ落ち

原発の是非論無用ずわい蟹





